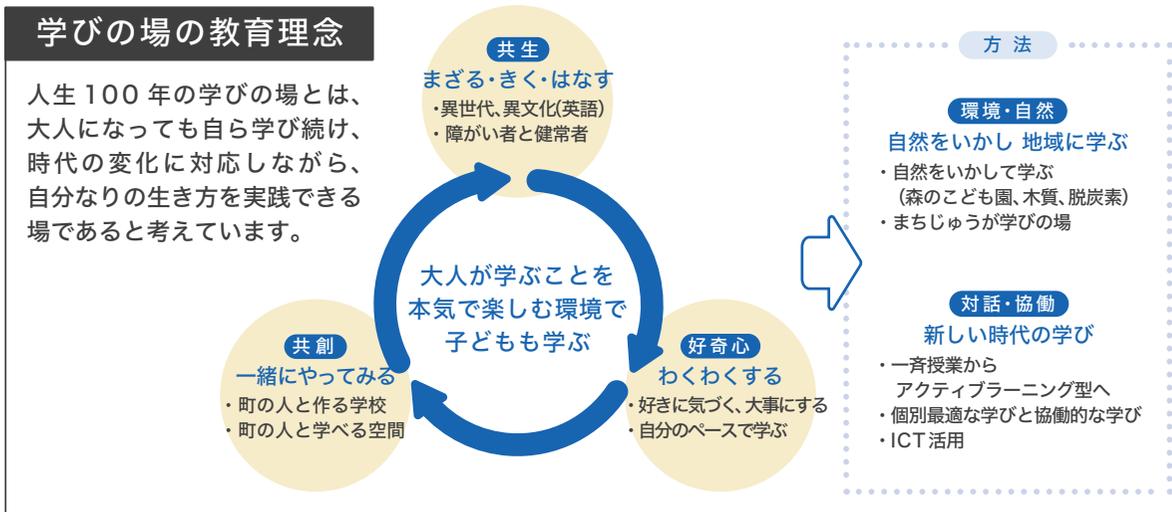


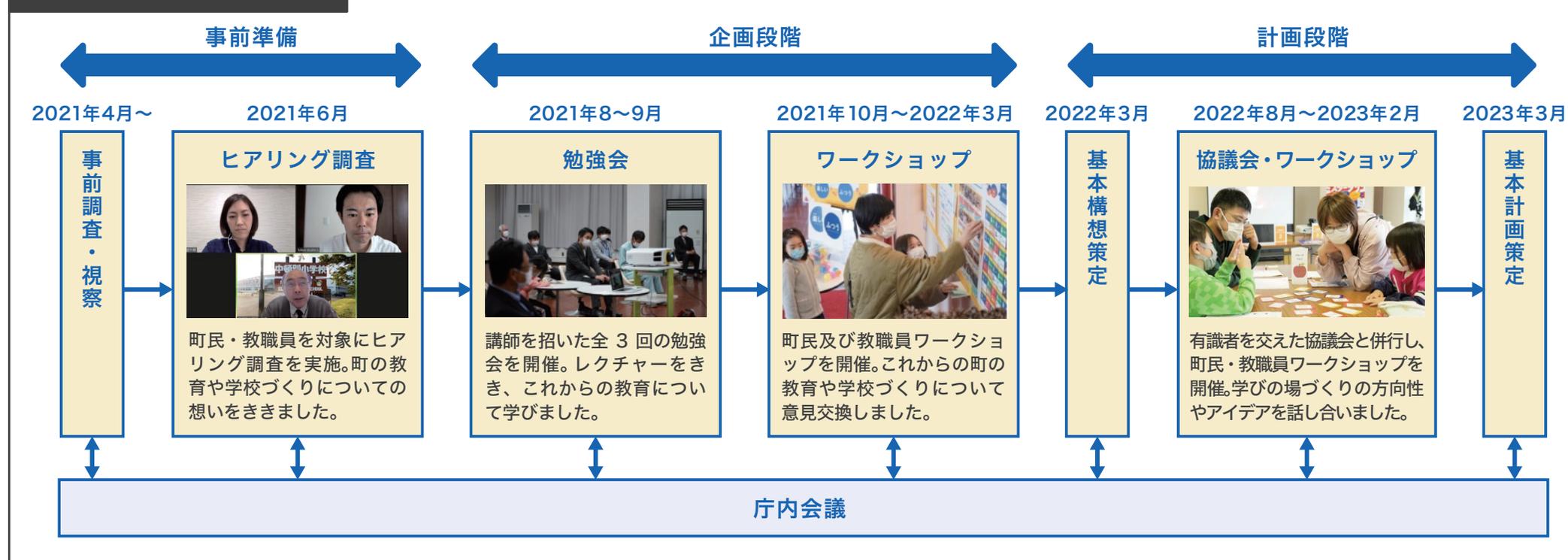
中頓別町「コミュニティデザインの手法を活用した人生100年の学びの拠点づくり」

中頓別町では、老朽化した中学校校舎の建て替えをきっかけに、町民・教育関係者の参加型で、地域における学びの場の在り方と新しい学校づくりに向けた基本構想・基本計画を策定しました。中頓別町で目指すのは、3歳から15歳が学べる幼小中一貫の学校にとどまらない、人生100年時代において子どもから大人まで学びつづけることのできる学びの拠点です。義務教育期間終了後の長い人生を、どのように生きていくのか。そのためにはどんな学びの場が必要なのか。町民・教育関係者・行政が一丸となって、地域の未来になくてはならない学びの拠点づくりを進めています。



学びの環境整備のプロセス

中頓別町では、コミュニティデザインの手法を活用し、下記の流れで人生100年の学びの拠点づくりを進めてきました。



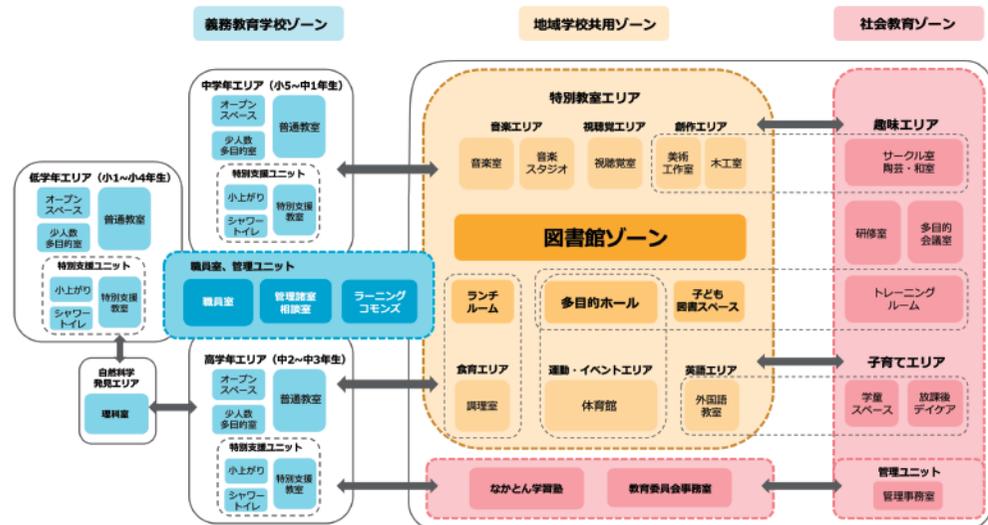
中頓別町「コミュニティデザインの手法を活用した人生100年の学びの拠点づくり」

施設の整備コンセプト

- 方針1 地域の学びや活動の拠点となるにぎわいのある施設
- 方針2 地域の自然の豊かさや環境を五感で感じ、ゼロカーボン社会を体現する施設
- 方針3 多様な学習を可能にする多機能な施設整備
- 方針4 空間の集約・共有による施設のコンパクト化
- 方針5 積雪地域の特性を考慮した施設
- 方針6 居心地がよく快適に学べる教育環境
- 方針7 安全・安心な施設環境

施設の構成図

子どもから大人までが学べる学びの拠点として、社会教育および学校教育をひとつながりとして実践できる施設の構成とし、子どもも大人も日常的に通うことができ、様々な活動ができる施設とします。



イメージ案

現時点における案であり、今後の検討に伴い変更となる可能性があります。

